

漢字小委員会における論点の整理－3

(1) 総合的な漢字政策の在り方にかかわること

1) 総合的な漢字政策の基本的な考え方

- 情報機器の普及を前提とした「漢字政策」を構築していくために必要な考え方や観点を整理していくことが求められる。
 - これまでの漢字政策（「書き表す」に重点を置いてきた施策）とは、根本的に異なる面があることをどのようにとらえていくのか。例えば、これまで以上に、「読む」を重視するという考え方に立つのか。また、漢字政策を考えていくときには、大原則（核になる部分）、原則、個別の問題といったレベル分けが必要であるのか。大原則をどこに置くのか。
 - 「書くこと」と「読むこと」の関係を踏まえて、「文字を書くことの意味」をどのように考えるのか。（手書きとの関係（※）、文字を打ち出すこととの関係、「鬱」のように書けないけれど読める漢字があることの意味など。）
 - ※ 例えば、「手書きのトレーニングなしで、将来漢字の識別ができることは不可能である」という仮説の位置付け等。
 - 「書けないけれども読める漢字」をどのように位置付けていくのか。
 - 新漢字表の在り方（重層構造の漢字表とする等）をどう考えるか。
- 常用漢字に限らず「言葉に関する施策」というのは定期的な見直しが必要であり、その前提として、調査計画を立てて定期的に調査を実施していく必要がある。
 - 今後の国語施策の基本的な考え方として、上記の「定期的な見直し」を打ち出していくのか。
- 学校教育における「漢字学習の在り方」をどのように位置付けていくのか。
 - 学校教育での「漢字学習」と「一般の漢字使用」との関係をどう考えるのか。

2) 総合的な漢字政策の具体的な進め方

- ◎ J I S 漢字や人名用漢字を含め、国としての一貫した漢字政策が必要である。そのためには、国語分科会のようなところで、全体を統括する必要がある。
 - 具体的にそれをどのような形で実現するか。少なくとも、J I S 漢字や人名用漢字の検討に何らかの形で関与できるようなシステムが必要ではないか。
 - J I S 漢字や人名用漢字の検討に際して資するような基本的な理念や考え方を具体的に提示できるか。

3) J I S 漢字・人名用漢字と国語施策との関係

- J I S 漢字や人名用漢字と、常用漢字とは性格が異なるので、そこを踏まえて議論していくべきである。特に J I S 漢字の位置付けが重要である。
 - 常用漢字は、国民のだれもがいつでも使えるようにしておきたい漢字である。したがって、J I S 漢字や人名用漢字が増える方向にあっても、それに合わせる必要はない。⇨これまでの漢字政策の在り方が現在の方向とズレてきているのではないか。そこを考えて、常用漢字をもう少し増やしていくべきである。

(2) 固有名詞についての扱い方にかかわること ((1) と (3) に関連)

- 固有名詞についての考え方を整理し、基準を示すべきではないか。
 - 上記(1)との関係で整理するのか、下記の(3)との関係で整理するのか。
 - 日本語表記の一環として、固有名詞であっても漢字政策に含めて考えるべきである。その場合、固有名詞における字体の扱いについても基準が示せると良い。

(3) 常用漢字表の見直しにかかわること

1) 見直しの必要性について

- どの程度まで見直すかは今後の課題であるが、見直すこと自体は必要である。

2) 見直しの観点について

- 戦前からの、特に戦後の「国語施策の考え方」をどう評価するか。
 - 基本的にこれを継承するか、見直していくか。
- ◎ 字種については増やすという方向だけでなく、調査結果に基づいて字種の入替えを行うことも検討する。
 - その場合の基本方針をどう考えるか。
- 常用漢字の音訓についても見直すかどうか。
- 常用漢字の「読み」と「書き」との関係はどう考えるか。(←→上記(1))
 - こういうパソコン時代なので、書けるということの位置付けが変化しているという考え方が必要ではないか。
- 学校教育との関係をどう考えるか。
 - 小・中学校における子供たちの状況を十分に踏まえる必要がある。
- 一般の言語生活というレベルで、常用漢字表の位置付けを考える必要がある。

3) 必要な漢字調査について

- ◎ 今回の検討においても、調査結果に基づいて考えていくべきである。
 - どの程度意味が分かって読めているのか、実際に漢字をどのように読んで、どのように使っているのか、を調査する必要がある。
 - どのくらい漢字が書けるかの調査が必要である。⇨常用漢字でさえ書けない人が多いので、どのくらい書けるかという調査は無理であろう。
 - 常用漢字表の位置付けを見直していくためには、例えば、何(どんな文章)を書くときに常用漢字表を意識するのか、といった調査も必要ではないか。また、「文字の読み」の単位を超えて、「語」の単位の調査も必要である。特に、語の単位でどのように表記されているかの調査(以前の国語研究所の調査のような)が必要であろう。
 - 高校生までの読み書き調査や、一般の人たちの実態を把握するための調査も必要であろう。

(4) 手書きの重要性にかかわること、その他

- 手書きの重要性をどのように考えていくか。
 - 電子辞書の影響などもあり、字形の定着していない学生や生徒が多い。そのために、よく似た字の選別ができない。この辺は、学校教育の重要な課題である。
 - ワープロ文字がこれだけ普及している状況との関係をどう考えるか。
- 仮名書きの効用や、ルビの活用といった漢字生活への提言をどう考えるか。
- 今後、日本新聞協会などからのヒアリングを考えてほしい。